

木器のある暮らし



八日市地方遺跡の河川跡の調査風景

八日市地方遺跡の北側を流れる河川跡で、木製品を製作していた跡が発見されている。製品ばかりでなく、未製品も出土しており、木製品の製作工程を解明する上で貴重な資料となっている。多種多様な木製品は八日市地方遺跡で消費されただけではなく、周辺の遺跡にも供給されていた。

出土した木製品の種類としては、農具や漁具、狩猟具といった生業にかかわるものから日常の生活用具、祭祀具や儀礼具、武器などがある。また、鳥や魚の形をした木製品も出土している。木の鳥は民族例を参考に竿の先につけて集落の境などにたてられていたと考えられており、木の魚は祭祀や儀礼の際のお供え物だった可能性も指摘されている。斧の柄は石斧と鉄斧では装着



鑄造した鉄斧をつけるための柄(八日市地方遺跡／弥生時代中期)

部分の形が違っており、それぞれに適した形に仕上げられている。甲や楯といった武器が出土しているほかに、模擬戦に用いられた武器形木製品も出土しており、狩猟具の弓や矢柄も争い事



鳥の形をした木製品(八日市地方遺跡／弥生時代中期)



武器を模した木製品(上段の左から4番目は木製把手のついた磨製石剣、八日市地方遺跡／弥生時代中期)



魚の形をした木製品(八日市地方遺跡／弥生時代中期)

(写真の提供、対象物の所蔵は小松市埋蔵文化財センター)

に使われた可能性もある。把手がついた状態で発見された磨製石剣やカゴにくるまれた壺型土器は全国的にみても希少な類例である。

木製品に使われた樹木が調べられて

おり、鍬や鋤といった農耕具・土木用具では堅いアカガシが大半で、中をくりぬいて製作される容器類では圧倒的にヤマグワやケヤキが多く、石斧や鉄斧の柄ではアカガシとモミで半数を越

えている。木製品の機能や用途に応じて木材の種類と部位が選択され、加工されている。(山本直人)